

【奈良県立宇陀高等学校】

学習指導と学習評価の工夫・改善点の概要

コンテンツの制作と発信に主体的かつ協働的に取り組む態度の涵養に向けて、教科横断的に学習を進める。

評価規準

【知・技】 HTMLやCSSの基礎的な知識について理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。

【思・判・表】 HTMLやCSSを適切かつ効果的に活用して創造的に問題を解決することができる。

【主】 最新の情報と情報技術などを活用することに主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

主体的・対話的で深い学びを実現する実践的・体験的な学び、個別最適な学び、協働的な学び

コンテンツの発信の手法
生徒の理解を随時把握

コンテンツの発信の統合と編集
教科横断的な学び

コンテンツの評価と改善①
協働的な学びの実施

コンテンツの評価と改善②
探究的な学びの視点を追加

授業の取組	
導入	<ul style="list-style-type: none">既習事項の確認を行う。
展開	<ul style="list-style-type: none">コンテンツの開発環境を整える。図鑑アプリケーションの内容を企画する。図鑑アプリケーションに必要な事項を調べて、コンテンツに反映させる。企画した内容をもとに、著作権に配慮しながら静止画を探し、必要があれば静止画を編集する。コンテンツに編集した静止画を挿入する。様々なメディアで閲覧できるようにコンテンツを充実させる。
まとめ	<ul style="list-style-type: none">次回以降に行う相互評価の準備を行う。

【「コンテンツの制作と発信」 コンテンツの発信、WEBアプリケーション開発】②

【図①】



【図②】



- 外部教材を活用して、コンテンツの開発環境を容易かつ統一的に整える。
- 既習事項の確認については、外部教材のコンテンツ（フォーム等）を活用して行う。確認内容は即时に反映されて、その後の個に応じた指導に生かす。
- 図鑑アプリケーションの内容を企画する中で、図鑑の内容について専門知識を収集させる（教科横断的な学びにつなげる）。
- 企画した内容をもとに静止画を挿入するが、著作権に配慮しているか指導する。また、必要があれば既習事項である静止画の編集を行わせる。
- 制作して学習が終わりではなく、相互評価及びその評価を踏まえた改善を通して、探究的な学びの視点や職業人として必要な豊かな人間性の涵養について示唆する。

本事例のポイント解説

奈良県

- ・「図鑑」というコンテンツの制作に向けて、図鑑の内容について専門知識が必要となるため、必然的に他教科の知識が必要になる。また、内容については制作する生徒の興味・関心により決定するため、コンテンツの制作と発信に際して、効果的に主体的かつ協働的に取り組む態度を涵養でき、教科横断的に学習を進めることができる。
- ・外部教材を効果的に活用することで、個別最適な学びの充実を図るとともに、学習評価についても容易にかつ効果的に行うことができる。
- ・専門教科情報科の見方・考え方を働かせ、「図鑑アプリケーション」というアプリケーションを制作する実践的・体験的な学習活動となっている。
- ・制作したアプリケーションを評価しあい改善する中で、協働的な学びの充実を図るとともに、探究的な学びの視点を取り入れた授業となっている。